

令和2年度 学校評価実施報告書

学校名 (高野中 学校)

教育目標	
一人一人を徹底的に大切に「高野教育」の推進	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 学習面では、コロナ禍の制限のある中、授業のユニバーサルデザイン化を推進し、すべての生徒に分かりやすい指導方法や教材教具の工夫改善に取り組むことができたことが成果である。生徒の内面について今年度実施した「こころとからだのアンケート」によって、長期間の休校中でのストレス状態の把握を行い、教育相談アンケートによって、学校生活や家庭についての悩み事や気になることの把握を行い、他者に自分の思いをうまく伝えられない生徒が多くみうけられ、コミュニケーション能力の育成に課題が見つかった。今後 GIGA 端末を利用したグループ学習においても、この能力は必要であり、生徒間や生徒・教職員間のみならず、教職員間や教職員・保護者間でもコミュニケーションを確実なものにしていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・すでに子どもが大人になっている私にとり、日頃は子どもに接する機会がありません。成長途上の真っ只中にあるこれだけの様々な若者に日々接しておられる学校という世界は、言葉は変かかもしれませんが、特別な世界、空間だと実感します。 ・コロナ禍の中で、学校運営の難しさと、生徒たちの心の中にまで関わる難しさに、日々ご苦労様です。一人一人の学びと育ちにあって、共有すべき社会やモラル、思いやりなど、教育の在り方がコロナを機に良い形に問われていくことを願っています。個人的には、クリエイティブな自発性や、希望や楽しさの探求といった個性が伸長する環境に携われたらと思っています。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和2年11月9日	学校運営協議会
最終評価	令和3年3月16日	学校運営協議会

(1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標
1. 教育目標の具現化にむけた学習指導体制の確立 ① 新しい発想のUD部を中心とした授業改善，学習指導の充実と指導力向上を図る。 ② 生徒の学習習慣の定着を図るため，各部と連携し組織として取り組む。 ③ 授業に「生徒指導の3機能」を取り入れ，学び合い・伝え合いなど言語活動の充実を図る中で， <u>生徒の自尊感情を高めることのできる教科指導を研究し，実践する。</u> ④ <u>生徒の「困り」に気づき，個別の発達等の課題に応じた合理的配慮も取り入れながら，全ての生徒にわかる授業を目指して，授業のユニバーサルデザイン化の取組を推進する。</u>

2. すべての生徒への学力保障と、進路展望を持たせるキャリア教育を強化する。
- ① 個性を生かし、能力を伸長させる学習指導を推進する。
 - ② 一人一人の学力状況や発達段階を分析し、個に応じた支援の在り方を研究して、授業改善に努める。
 - ③ 基礎学力の向上を図るために家庭学習を検討し、その取組を進める。
3. 校内研修を積極的・計画的に活用し、上記目標の実現を図る。
- ① 研究授業の実施方法を生徒の変容に重点を置き、研究協議の内容を工夫して有効な研究を進める。教職員は教育のユニバーサルデザインの視点を大切に、お互いの授業を参観して、話し合い、高め合える研修を進める。

具体的な取組

- 1-① 研究主任（UD 部長）を中心とする教科主任会を毎週定例で開き、各教科の課題の共有化と課題解決の工夫改善を検討し、各教科会の活性化をはかり学習指導の充実と指導力の向上に努める。
- 1-② 家庭学習の充実を図るために、教科会で検討しながら家庭学習の習慣化について、具体的に提示し、家庭での学習時間の質と量の向上を図る。また、教科間連携などを行い内容・方法の検討をする。
- 1-③ 「生徒指導の3機能」を意識的に取り入れた授業改善を図る中で、言語活動の充実を図る効果的なグループ学習の在り方を研究する。また、学校司書と連携して図書室を学習の有効活用。さらに、朝読書も継続・充実させながら、言語能力を高める時間とする。
- 1-④ LD等支援が必要な生徒の学力向上に向け、通級指導教室やUD部との連携の中で、全教職員が専門的な理論を学び、授業のユニバーサルデザイン化を推進する。
- 2-① 個に応じた指導を必要とする生徒には、学習習慣の定着や学力向上への手立てを提示する。
- 2-② 授業のユニバーサルデザイン化を実践するための効果的な指導方法や教材教具の工夫改善。
- 2-③ 国・数・英の基礎・基本を定着させるため、朝に実施しているベーシック学習の内容やそれをフォローする学習会の在り方について改善する。また、学習会の企画・運営をUD部に位置づけ、困りを抱えた生徒の学習効果を分析しながら、有効な手立てを研究、実施する。
- 3-① 全教員が研究授業・研究協議に関わり、授業力・指導力の向上を図る。

(取組結果を検証する) 各種指標

学習確認プログラム、定期テストの結果、学校評価等のアンケート

中間評価

各種指標結果

- ・全国学力学習状況調査は、今年度は実施されなかった。
- ・3年生の学習確認プログラム（7月実施）の結果は、国語で平均正答率が全市平均を上回ったが、その他の教科の平均正答率は全市平均を下回った。
- ・2年生の学習確認プログラム（9月実施）の結果は、社会で平均正答率が全市平均を上回ったが、その他の教科の平均正答率は全市平均を下回った。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・教科会および教科主任会をそれぞれ週1回行い、各教科の授業の進度および成果について共有することができた。
- ・大学教授を招いてリモートによる研修会（現在までに2回実施）を行い、授業の改善について

	<p>取組を進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって、「グループで学び合うこと」は分かりやすい方法であることは、昨年度までのアンケート結果からも明らかであったが、コロナ禍のため、十分に活用できていない。しかし、グループで話し合うことによって、どのような力をつけるかをしっかりと各教科で検討し、活用できるようにしたい。 ・学習内容の定着を図るために、ベーシック学習、学習会・補習の在り方、家庭学習の取組について、各教科で検討しながら実施している。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の取組を検証し、特に家庭学習を充実するために、どのように取り組ませるかを、生徒にも保護者にもわかるように示す。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>学習確認プログラム結果</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による非常な制約の中での授業展開を余儀なくされたことの大変さは、想像を超えるものであったと拝察する。授業方法も今までとちがう形(リモート授業など)を取り入れたり、これからの新しい時代に向けて、どのような取組が必要なのか、まだまだご苦勞をしていただくことになるが、よろしくお願ひしたい。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>①学習確認プログラムの結果</p> <p><各学年 学習確認プログラム結果> 高野中／全市平均</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>総合</th> <th>国語</th> <th>社会</th> <th>数学</th> <th>理科</th> <th>英語</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1年</td> <td>11月</td> <td>66.5/68.3</td> <td>72.5/72.7</td> <td>57.5/61.3</td> <td>65.5/68.3</td> <td>65.1/67.5</td> <td>71.2/71.2</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>58.8/59.0</td> <td>61.1/60.1</td> <td>59.9/61.9</td> <td>56.8/58.4</td> <td>58.3/58.1</td> <td>57.7/56.1</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">2年</td> <td>9月</td> <td>49.8/59.5</td> <td>58.4/70.8</td> <td>58.0/55.9</td> <td>44.8/59.7</td> <td>41.6/52.7</td> <td>45.5/57.8</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>45.4/54.8</td> <td>52.7/65.8</td> <td>42.8/42.8</td> <td>43.1/55.3</td> <td>43.9/53.4</td> <td>44.4/56.2</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>46.8/56.4</td> <td>56.1/67.6</td> <td>54.3/51.9</td> <td>39.6/58.3</td> <td>43.7/49.4</td> <td>41.5/54.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">3年</td> <td>6月</td> <td>53.1/55.1</td> <td>62.5/60.6</td> <td>54.4/56.2</td> <td>58.3/60.8</td> <td>42.8/47.3</td> <td>44.0/49.9</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>59.0/61.9</td> <td>69.1/68.6</td> <td>52.1/58.4</td> <td>58.0/56.2</td> <td>59.2/61.9</td> <td>56.7/63.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>1年生は、3教科で全市平均を上回る事ができた。</p> <p>2年生は、社会で平均正答率が全市平均を上回る事ができた。</p> <p>3年生は、国語で平均正答率が全市平均を上回る事ができた。</p> <p>②学校評価アンケート結果</p> <p>後期の学校評価アンケート結果より、学習確認プログラムの活用(予習シートと復習シートの活用など)については、前期と比較して、生徒および保護者ともに0.2ポイント上昇した。また、家庭学習の充実については、前期と比較して、生徒は0.2ポイント上昇、保護者は0.1ポイント下降した。</p>			総合	国語	社会	数学	理科	英語	1年	11月	66.5/68.3	72.5/72.7	57.5/61.3	65.5/68.3	65.1/67.5	71.2/71.2	2月	58.8/59.0	61.1/60.1	59.9/61.9	56.8/58.4	58.3/58.1	57.7/56.1	2年	9月	49.8/59.5	58.4/70.8	58.0/55.9	44.8/59.7	41.6/52.7	45.5/57.8	11月	45.4/54.8	52.7/65.8	42.8/42.8	43.1/55.3	43.9/53.4	44.4/56.2	2月	46.8/56.4	56.1/67.6	54.3/51.9	39.6/58.3	43.7/49.4	41.5/54.5	3年	6月	53.1/55.1	62.5/60.6	54.4/56.2	58.3/60.8	42.8/47.3	44.0/49.9	10月	59.0/61.9	69.1/68.6	52.1/58.4	58.0/56.2	59.2/61.9	56.7/63.5
		総合	国語	社会	数学	理科	英語																																																						
1年	11月	66.5/68.3	72.5/72.7	57.5/61.3	65.5/68.3	65.1/67.5	71.2/71.2																																																						
	2月	58.8/59.0	61.1/60.1	59.9/61.9	56.8/58.4	58.3/58.1	57.7/56.1																																																						
2年	9月	49.8/59.5	58.4/70.8	58.0/55.9	44.8/59.7	41.6/52.7	45.5/57.8																																																						
	11月	45.4/54.8	52.7/65.8	42.8/42.8	43.1/55.3	43.9/53.4	44.4/56.2																																																						
	2月	46.8/56.4	56.1/67.6	54.3/51.9	39.6/58.3	43.7/49.4	41.5/54.5																																																						
3年	6月	53.1/55.1	62.5/60.6	54.4/56.2	58.3/60.8	42.8/47.3	44.0/49.9																																																						
	10月	59.0/61.9	69.1/68.6	52.1/58.4	58.0/56.2	59.2/61.9	56.7/63.5																																																						
自己評価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年間を通して、教科会および教科主任会をそれぞれ週1回行い、各教科の授業の進捗および成果と課題について共有することができた。 ・後期(緊急事態宣言解除後)は大学教授を招いて対面の研修会を行い、「教育のゲーム化」に 																																																												

	<p>ついて講義いただき、ゲームに取り入れられている要素を授業に取り入れることで、主体的に学ぶ生徒を育成することができることを学んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に「生徒指導の3機能」を取り入れ、生徒一人一人がお互いに共感的理解をしながら、自己決定の場面を取り入れた授業を多くの教科で実施できた。 ・授業のユニバーサルデザイン化を推進し、コロナ禍の制限の中、すべての生徒に分かりやすい指導方法や教材教具の工夫改善に取り組むことができた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートより、次の5項目についての改善が必要だと考えました。 <p>①基礎の定着を図る補充学習 ②グループ学習の活用と言語活動の充実 ③キャリア教育の充実 ④学習・情報センターとしての図書室活用 ⑤人権を尊重し、社会にある課題を見抜き、解決する態度の育成</p> <p>そのための取組として、次の3点を挙げます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合的な学習の時間の充実 2. 基礎的な学習内容を習得する時間の確保 3. 学び合い、高め合える子どもたちの育成 <p>そして、これらの取組を充実させるために、『誰もが学びに参加できる授業づくり、学級づくり』を重点的に行っていきたい。学力、学びに向かう力、共に学び合える関係性を育むのは日々の取組、つまり日々の授業の中にあります。</p>
<p>学校関係者評価</p>	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>次の意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業が子どもたちにとって興味深く楽しいものになっていれば、子どもたちは自然に学ぶようになり、テスト前の学習にも自主的に取り組むようになると思います。 ・先生方は、それぞれ授業科目のプロであり、大きなバックグラウンドをお持ちなので、限られた時間や様々な制約条件の中ではありますが、その教科に接する喜びを、先生ご自身のキャラクターも加わって、子どもたちに感じとってもらえるよう、強く希望します。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>他者との関わりを通して自己を見つめ</u>、道徳的価値を自ら考え、判断し、実践する態度を養う。 2. <u>生徒が規範意識を持ち、生徒会や学年、学級づくりを中心に支え合い高め合える集団づくりをすすめる。</u> 3. 人権文化の担い手として、生徒一人一人が、生きることの大切さを学び、自尊感情を高めると共に、<u>お互いの違いを認め合い、支え合うことのできる生徒の育成をめざす。</u> 4. 豊かな心の育成は豊かな他者との関わりから育まれるという視点から、特別支援教育を踏まえた集団づくりの在り方を探る。
	<p>具体的な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> 1-① <u>他者との関わりを通して自己を見つめるとともに</u>、互いの生き方や価値観の違いを認め合い、道徳の時間を要として、特別活動、総合的な学習の時間など教育全般において人権教育を計画的に行う。 1-② 道徳の教科書を有効活用し、学年道徳、持ち回り道徳等の取組を通して内容の充実と実践力の向上を図る。 1-③ 様々な体験活動を通して、総合的な学習の時間や道徳との連携を図り道徳的価値の自覚を

深める指導を推進する。

- 2-① 全教職員の共通認識のもと学校生活・学習規律の確立に向けた取組を実践する。
- 2-② クラスマネジメントシート等を活用、分析を行い、集団の規範意識を高まるにつなげる。
- 2-③ 生徒にかかわる課題（いじめ、不登校、薬物乱用、携帯・スマートフォン等によるトラブル）解消に向けた取組を推進する。特に、発達障害との関わりも検証し、特別支援教育の観点から生徒や保護者の「困り」に共感し、「困り」を解消する取組をすすめる。
- 2-④ 生徒会活動の活性化を図るため、生徒が主体的に活動を企画・運営し、互いを認め合い、支え高め合う学級・学年集団づくりを推進する。
- 3-① 豊かな人権感覚を培う人権教育の実践により、人権について学び、社会が持つ課題を見抜き、解決する力を育成する。
- 3-② 一人一人が徹底的に大切にされる集団づくりをめざして、様々な体験活動等で、大切に受け継がれている「高中スリーピース宣言」を題材として、お互いの違いを認め、支え合える人権学習を進める。
- 4-① 発達障害支援アドバイザーやスーパーバイザーの助言により、特別支援教育の視点から心を育む関わりについて研究を進める。（文部科学省委託事業「教科指導法」指定）
- 4-② 「つながるいのち」の観点から、「困り」を抱えた生徒が、自分が大切にされているという実感がもてるような関わり方、友好的な関係性の構築について研究を深める。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・ 道徳振り返りシート
- ・ クラスマネジメントシート
- ・ 学校評価等のアンケート

中間評価

各種指標結果

- ・ 学校評価アンケートの集計結果より、「規律ある生活習慣とルールを守る態度の育成」「学習の基本となる姿勢や習慣づくり」の実現度の全体の数値は低くなかったが、学年によって差がある。「道徳の時間を中心に豊かな心を育み、実践する態度の育成」の実現度は高い。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・ 学校評価アンケートの集計結果からみても、生徒は人権学習や道徳の授業をしっかりとこなしていることが分かる。教科の授業と同じように、それぞれの授業の目標をしっかりと明示し、生徒がその授業の見通しをもてるようにする。
- ・ 生徒に関わる課題解消に向けて、関係機関と連携した取組を行う必要がある。
- ・ ころとからだのアンケートによって、長期間の休校中に不要不急の外出をしなかった時の家庭でのストレス状態の把握を行い、教育相談アンケートによって、学校生活や家庭についての悩み事や気になることの把握を行った。他者（友人・保護者・教職員）に自分の思いをうまく伝えられない生徒が多く、コミュニケーション能力の育成に課題がある。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ 人権学習や道徳の授業では、生徒の現状をしっかりと把握し、それぞれの生徒の考えや思いをお互いに共有できるようにし、他者理解をすすめることで、コミュニケーション能力の育成を図る。
- ・ 関係機関と連携し、非行防止教室を実施する。

	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>学校評価等のアンケート</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「豊かな心」を育む一つに、読書や文献を調べたりすることがあげられるが、コロナ禍で地域の図書館や歴史館も閉鎖されていた時期があり、一市民としても不便であった。ボランティア活動（ボーイスカウト活動など）でも全国的に大変厳しい行動制限が続いているが、そのためのWEB活用のコミュニケーションがすすみ、スキルが上がったことや、個性が活かされるきっかけを産んだことは収穫ではないだろうか。 ・新型コロナウイルスの感染によって、感染者が不当な差別や嫌がらせを受けていることがニュースであり、心が痛い。そのようなことがない人・学校・地域であるようにしていければと思う。 ・有名人の自殺が相次ぎ、そのことが子どもたちに与える影響が心配である。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>後期の学校評価アンケート結果より</p> <p>①「支え合い、高め合える集団づくり（学級、生徒会、部活動）」について、前期と比較して、生徒は0.1ポイント上昇した。保護者は0.4ポイント下降した。</p> <p>②「人権を尊重し、社会にある課題を見抜き、解決する態度の育成」については、前期と比較して、生徒は0.5ポイント上昇した。保護者は0.2ポイント下降した。</p> <p>③「道徳の時間を中心に豊かな心を育み、実践する態度の育成」については、前期と比較して、生徒は0.4ポイント上昇した。保護者は0.1ポイント上昇した。</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の①～③は例年生徒のアンケート結果の中でもポイントが高く、特に①「支え合い、高め合える集団づくり（学級、生徒会、部活動）」では、昨年度の生徒会から今年度の生徒会にいいバトンタッチができ、生徒会を中心に「自分たちの手でより良い学校にしよう」という声かけや活動が引き続き生徒の達成感につながっているのではないかと考えられる。 ・あらゆる場面（授業、行事等）で生徒指導の3機能を活用し、他者の意見や考えに触れる機会を多くすることで、共感的人間関係を作りたい。 ・本校の3ピース宣言にあるように、「一人一人の違いをわかり合って、大切にしていこう。」「誰かからじゃなく自分からやらなきゃ何も始まらない。」この言葉にあう言動をとれるような学校づくりをしていく。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>授業を始め、道徳の時間、人権学習で、継続して、葛藤や気づきなど、「自分のこととしてとらえることができる」ような教材を用いて、行動化できるように取り組む。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>昨年も意見したが、高野中学校で校歌と同じように大切にされている「高中3ピース宣言」の歌詞にもあるように、生徒みんなが行動できたら、本当に素敵な人、学校になると思う。</p> <p>また、コロナ禍で「高中3ピース宣言」を歌う機会が減少したが、次年度は歌う機会が多くなり、これらの歌詞の意味をかみしめることができるように願う。</p>

(3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

- 1 生涯を通じて自らの健康や安全を守り、「いのち」を大切にする生徒を育成する
- 2 望ましい生活習慣の確立と心身を鍛える生徒を育成する。
3. 小中一貫高野中ブロックとして、セーフスクールの取組を進める。

具体的な取組

- 1-① 防災教育との関連を図りながら発達段階に応じて、「いのち」についての指導の充実を図る。
また、喫緊の課題である新型コロナウイルスとの戦いに打ち勝ち、「いのち」や日常生活の安全について向き合うことができる生徒を育成する。
- 1-② 健康・保健教育の充実を図り、心身ともに健康な生活を送るため、非行・飲酒・喫煙・薬物乱用を防止する教育実践や「命のがん教育」を推進する。
- 1-③ 食物アレルギーのある生徒の学校生活を安心・安全なものにするため、正しい知識や対処の仕方・対応についての研修を充実させるとともに、保護者との連携と校内組織の確認を徹底する。
- 2-① 家庭・地域・小学校と連携して「早寝・早起き・朝ごはん」を推進し、基本的な生活習慣を確立させる。
- 2-② 「性に関する教育」を発達段階に応じて計画的に推進する。
- 2-③ 部活動の活性化を図り、心身の健全な育成を図る。そして望ましい生活習慣の確立や自ら健康・安全に心がけ、生涯心身を鍛える姿勢を育てる。
- 3-① 新3年生は、養徳小学校におけるプール事故の当該学年でもあるため、小中の連携を図り、心のケアと共に、「いのち」を大切にする心や姿勢を育む。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・セーフスクールの取組についてのアンケート（生徒が状況に応じて動くことができる。正しい知識と危険から身を守る方法がわかる）
- ・学校評価等のアンケート

中間評価

各種指標結果

- ・安全教育については、自校での取組はまだ行えていない。しかし、日々の生活における安全については必要に応じて指導を行った。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・安全教育については、日常生活全般において安全確保のために必要な行動が実践できるような訓練（例：出火場所や通行禁止の場所を知らせない避難訓練など）を行うことで、教職員や生徒が、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるような取組を予定している。
- ・保健指導については、年間計画に示されている具体的な取組が行われている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭および地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できるようにする。そのために、概要を伝えない避難訓練の実施や全学年の安全教育を行う。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

安全教育の取組についての事後アンケート

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・新型コロナウイルスに関するニュースが毎日あり、感染者数や重傷者数、死亡者数など「いのち」について否が応でも考えさせられている。安心・安全な学校であるために、今一度、感染予防に関する取組を見直し、徹底していただきたい。</p>
---------	---

最終評価

<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>高野中学校ブロック（養正小学校，養徳小学校，高野中学校）での安全教育の成果として，避難訓練時の警報音にも，生徒たちは，迅速に①姿勢を低くする ②頭を守る（机の下に入る） ③動かないことについて徹底できている。昨年度から継続して，1月の避難訓練の前に，災害に対応する安全教育の一環として，学校外や休憩時間に地震が発生した際の対応について生徒が学ぶ機会を設けた。</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題</p> <p>今年度の避難訓練は，地震の後に火災が発生することを想定した。①地震発生時の自助 ②被害状況の確認 ③火災発生場所の発見 ④消火活動 ⑤避難経路の確認・指示 ⑥避難 の手順の中で，火災が鎮火しないという設定で，実際に消防署に通報する訓練も行った。</p> <p>どのようなことが起こるかを十分に想定し，生徒が有事の際に安全に避難できるように，今後も訓練していきたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>①生徒の自助・共助の態度を育成する訓練内容を検討する。</p> <p>②今年度はコロナ禍で実施できなかったが，高野中学校ブロック3校の合同研修会を継続して実施し，教職員の安全を守る知識・技能をより高める。</p> <p>「かけがえのないいのちを守りきる」教育を進めるには，全教職員が学校における組織体制や安全教育の重要性と緊急性を十分に認識し，安全に関する自らの意識や対応能力，安全教育に関する指導力を高めるための実践的な研修が不可欠である。高野中学校ブロックでは，地域や関係機関と連携を図りながら，各学校で研修を行うことに加え，各校の安全主任を中心とした組織が，合同訓練や合同研修を企画・運営することに大きな意義があると考えている。取組を共有することによって，理論的にも体験的にも系統性が意識でき，内容が深まるだけでなく，きょう</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>左京消防署，地域の消防分団と連携して，地域の防災力の向上をよろしく願います。</p>

（4）学校独自の取組

<p>重点目標</p> <p>教育のユニバーサルデザイン化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業づくりのユニバーサルデザイン化 ○教室環境のユニバーサルデザイン化 ○学級経営のユニバーサルデザイン化（人間関係のユニバーサルデザイン）

具体的な取組

普段の授業、授業のユニバーサルデザイン化に向けた校内研修会、年3回（春・秋・冬）行われる授業研修会を通して、「主体的・対話的で深い学び」につながる教材研究と手法の研究

①授業にユニバーサルデザインの考えを取り入れ、困りのある生徒が、学びやすい授業は、すべての生徒にとって学びやすいという視点で学力向上を目指す。（学習環境の改善や学力の向上）

②教師の指導力を向上させる（教材教具等の開発を含む）

様々な集団活動の中で、生徒同士が多様性を理解し、互いの個性を認め合える集団づくりを通して、全ての生徒の自尊感情を高め、学校生活への定着と社会自立を促していく。各学級でのユニバーサルデザイン化のチェックや授業の振り返り、生徒アンケートなどを分析し、教職員全員が授業改善の視点に気づくことを目指す。

③様々な課題について事例を積み上げながら方向を探る（個別的配慮の改善）

・個別の指導計画作成にあたり、ケースカンファレンスの在り方や本人・保護者との話し合いの進め方、合理的配慮の求め方や合意事項の記録の在り方、小学校から中学校、中学校から高校に至る個別の指導計画の引継など様々な課題について、より多くの事例を積み上げながら検討を進める。

（取組結果を検証する）各種指標

・学校評価等のアンケート ・得意な学び方チェックリスト ・授業づくりチェックリスト

中間評価

各種指標結果

・生徒の得意な学び方チェックリストについては、今年度の集計はできていないが、2・3年生については昨年度の集計結果より、「図や表や写真や実物を見ながら、先生の言葉での説明を聞く」「班やグループで学び合う」「何度も問題を解く」がよくわかると答えていた生徒が多かった。また、学校評価（生徒）からも、「グループ学習（学び合い）の活用と言語活動（伝え合い）の充実」の実現度が数値が高かった。

・教員の授業づくりチェックリストの集計結果より、本時の目標や授業の流れの提示と色覚に困りのある生徒にも分かりやすいチョークの使用については、すべての授業で実践している。

自己評価

分析（成果と課題）

・教育のユニバーサルデザイン化を継続して取り組むこと。

・授業に、生徒指導の三機能（自己決定の場・自己存在感・共感的理解）を取り入れ、生徒の自己肯定感を高める。

・生徒に授業の見通しを持たすために、本時の目標の提示や授業の流れの提示を行うことをどの授業でも行う。

・各学級の得意な学び方を授業に取り入れること、困りを抱えた生徒への支援に配慮した授業の展開を行う。

分析を踏まえた取組の改善

・研修会やカンファレンスを通して、学校として共通した取組（授業改善）を行う。

・教師主体の授業から生徒主体の授業に改善する。

・「funny」な授業から、「interesting」な授業を行う。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

・学校評価（生徒評価） ・学習確認プログラム結果 ・得意な学び方チェックリスト集計

・授業づくりチェックリスト集計 など

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・授業のカリキュラムが制約を受ける中で生徒たちが、感受性が高く経験値が小さいこの時期に、何か一つでも心に残るものを掴んでくれることを願っている。それはアンケート等には現れていないかもしれないが、引き続き生徒へのご指導をよろしく願いたい。</p>
---------	--

最終評価

<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <p>後期の学校評価アンケートの結果より、「グループ学習（学び合い）の活用と言語活動（伝え合い）の充実」について、前期5.1ポイント、後期5.3ポイントと実現度が高い数値を表している。</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>教育のユニバーサルデザイン化をベースとした生徒の「自己肯定感」を高める授業改善に取り組むことで次の2点の成果があった。</p> <p>①コロナ禍の中、グループ学習に制限があり、自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりすることの大切さを、生徒も指導者も改めて感じた。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>コロナ禍の中でもできるグループ学習の方法として、GIGA 端末を用いた手法を今年度末に教職員全員で研修の時間をもった。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>なかなか学校が意図している学習が進められない状況があったが、GIGA 端末を授業で使用しての取組を進めていただきたい。</p>

(5) 業務改善・教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p> <p>教育者としての職責を自覚し、資質・指導力を高めるとともに、働き方改革を進める。</p>
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「例年通り」を見直し、生徒の資質・能力を高める取組を行う。(形だけを継承しても意味がない。) ・主任・チーフとして、その立場で学校教育活動を見ることのできる組織づくり ・若手が「主任」に、ベテランは支援の立場で、高野中学校がチームとなって教職員の人材育成をはかる。 ・「見える化」をすすめ、「段取り」「見通し」をもった取組を行う。教職員も自らユニバーサルデザイン化を推進する。) ・「一人一人を徹底的に大切にすること」で、背景にも踏み込んで一人一人の「困り」に気づく力を養う。「一人一人が徹底的に大切にされる集団づくり」を行うことで、一人一人の違いを認める「人権感覚」を育む。 ・「相手に伝わる」取組を行う。「教師目線」ではなく、「生徒目線」になる。「信頼」のないところでは、伝わらない。常に「誠実に」「ていねいに」。 ・時間外勤務時間数の月45時間以内を目指す。(月80時間越えを0人する。)

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・時間外勤務時間数の状況

中間評価

各種指標結果

- ・見通しを持って取組を行えるようになってきており、突発的な生徒指導以外では長時間の時間外勤務は減少しつつある。
- ・予定退勤時刻についても、突発的な生徒指導以外では、守れることが多くなってきた。

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・教職員もユニバーサルデザイン化を進めるにあたって、見通しを持つ (日々の退勤時刻、取組の期日など) ことで作業の効率化を少しずつ意識できるようになってきた。
- ・教職員間で、さまざまな共有すべき情報を「見える化」すること、積極的にコミュニケーションをとることでさらなる作業の効率化を行う。
- ・業務を改善すること、作業の効率化を図ることで、生徒に向き合える時間を多くし、「一人一人を徹底的に大切にすること」ができるようにする。

分析を踏まえた取組の改善

- ・共有すべき情報の「見える化」
- ・会議時間の短縮

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

学校評価アンケート

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・明るく元気な生徒を育成するためには、先生方が健康で生き生きと活動されることが大変重要である。くれぐれも健康にはご留意いただきたい。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

後期の学校評価アンケートの結果より、保護者の結果は、15項目中5項目で実現度が上がった。

自己評価

分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題

- ・保護者のアンケート集計結果があまり振るわなかったのは、学校行事 (文化祭・体育祭・自由参観週間など) やPTA活動に参加していただく機会が今回は減り、学校の様子や生徒の様子を感じていただくことができなかつたことが評価につながったと考えられる。
- ・教職員もユニバーサルデザイン化を継続して進めるにあたって、見通しを持つ (日々の退勤時刻、取組の期日など) ことで作業の効率化をさらに意識できるようになってきた。
- ・教職員間で、さまざまな共有すべき情報を「見える化」すること (ホワイトボード、電子メールの活用等)、積極的にコミュニケーションをとることでさらなる作業の効率化を行う。
- ・継続して、業務を改善すること、作業の効率化を図ることで、生徒に向き合える時間を多くし、「一人一人を徹底的に大切にすること」ができるようにする。

分析を踏まえた取組の改善

単に働く時間を短縮することが目的ではなく、自分の働き方を見つめなおす機会とする。

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>「生徒一人一人を徹底的に大切にするため」にも業務改善，働き方改革がしっかりと なされることを期待している。</p>